

[地域住民の協力による学習支援の事例]

地域住民と学校が協力した中学校夜間補充教室（がんばらナイト）を運営

東京都葛飾区／葛美^{かつみ}中学校支援地域本部

■ 活動の目的・概要

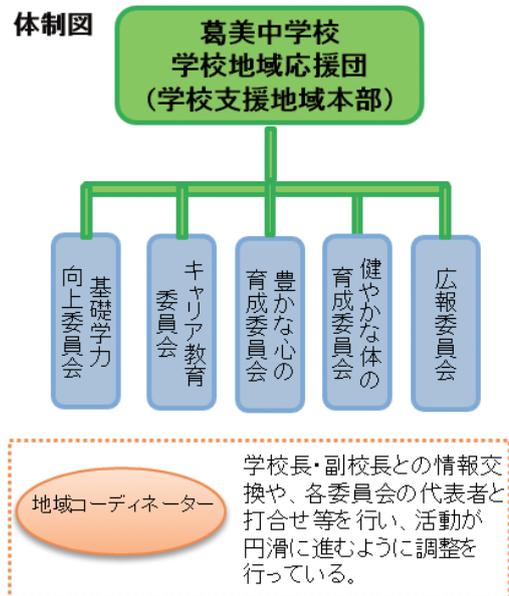
○目的

学校・家庭・地域が協力し合い、地域ぐるみで子供たちを育てる体制を整えることを目的に、平成22年度に葛美中学校支援地域本部を発足しました。

○概要

- (1) 基礎学力向上委員会：夜間補充教室（がんばらナイト）
- (2) キャリア教育委員会：3年生の面接指導
- (3) 豊かな心の育成委員会：生徒会と地区委員会の懇談会
：少年の主張大会審査員
：朝のあいさつ運動
- (4) 健やかな体の育成委員会
：農園を活用した食育の推進・花壇整備
：ロードレース大会協力
- (5) 広報委員会：広報紙「YELL」の発行

体制図



■ 活動の特徴・工夫

○夜間補充教室（がんばらナイト）

葛美中学校では、平成22年度から、学校支援地域本部において、無料の夜間補充教室（がんばらナイト）を実施しています。ボランティア（自治町会や保護者、青少年育成地区委員等の方々）の皆さんには、生徒来校時の受付やプリントの採点、登下校時の安全見守りといった形で協力してもらっています。

○地域コーディネーターの役割

青少年委員をコーディネーターとして配置し、学長・副校長をはじめとする学校の先生や、指導員、ボランティアの方々と密に連絡を取り合うことで、夜間補充教室（がんばらナイト）が安全、スムーズに運営できるように活動しています。

<対象> 中学1年生～3年生の希望者

<会場> 校舎の余裕教室

<年間活動日数>

約65回 学期中の週2回

19:00～20:35 (2時間程度)

<内容>

原則として、学校のワークブックを使用し、学習の基本は学年別に行う自主学習です。分からないところや解説して欲しい問題を指導員に質問する形式で実施しています。



活動中の教室の様子



講師から解説を受ける生徒

■ 立ち上げ当時

○学校地域応援団立ち上げのきっかけ

葛美中学校では、以前から、あいさつ運動や地域行事の参加協力等で地域と密接な関係を築いていました。また、学力向上を目指し夜間補充教室（がんばらナイト）を開催するにあたり、今まで以上に地域の協力が必要となったため、あいさつ運動等で活動している地域の方々の協力を得て、平成22年度に、学校地域応援団（学校支援地域本部）を立ち上げました。



応援団立ち上げ以前から行われているあいさつ運動

○当時の夜間補充教室（がんばらナイト）

開始当初は、予想を上回る参加生徒に戸惑い、生徒の対応についてスタッフの反省会が1時間以上に及ぶこともありました。生徒が勉強に集中できる環境づくりを目指すために、開催日を学年毎に分けたり、タイムカードを導入したりする等の工夫や人材確保のため、学校便りでボランティアの募集等を行いました。



開始当初は、新聞・TVでも報道された夜間補充教室

■ 展開・現在

○学校地域応援団の展開

現在、学校地域応援団の活動は、5つの委員会に分かれて活動しています。夜間補充教室（がんばらナイト）以外にも、3年生の面接指導や学校と地域の懇談会、農園活動等幅広い活動を地域の力を借りながら行っています。様々な活動を通じ、地域と生徒の距離が以前より近くなり、街中で生徒から地域の方にあいさつする姿も見られるようになりました。



地域の方に面接官をお願いして行われる面接指導

○夜間補充教室（がんばらナイト）の実績

平成27年3月現在、葛美中学校では延べ13,000人以上の生徒が夜間補充教室（がんばらナイト）を利用しています。また、平成26年には、安倍総理が教室の視察に訪れました。



安倍総理による夜間補充教室の視察

■ 今後の展望・課題

○今後の展望

学校地域応援団が発足してから6年が経過しました。かつて、夜間補充教室（がんばらナイト）に通っていた生徒が大学に進学し、初のOB講師としてスタッフの仲間入りをしてくれました。「良い学校づくりは、明るい未来の町づくり」をモットーに、今後も、地域と学校が連携・協働し、夜間補充教室（がんばらナイト）をはじめ、ひとつひとつの活動を充実・継続させていく予定です。



[放課後の安全・安心な居場所づくり]

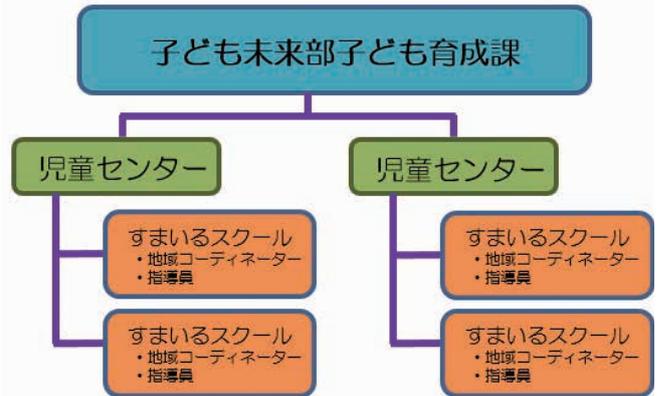
遊びも学びも友だちといっしょ！放課後のみんなの居場所

東京都品川区／第二えんざん延山小学校

■ 活動の目的・概要

- すまいるスクールは、「放課後子ども総合プラン」として「放課後児童健全育成事業」と「放課後子供教室」を一体的に運営する、品川区の「全児童放課後等対策事業」です。
- 学校施設を活用した安全な居場所を提供するとともに、学びと遊びを通して子供たちの成長を育みます。
- 「勉強会」、「教室」、「フリータイム」を中心に、多様な内容の事業を実施しています。

体制図



■ 活動の特徴・工夫

- 区内全公立小学校内（37校）で実施、区長部局の子ども育成課が所管し、教育委員会事務局と連携・協力して実施しています。
- 「勉強会」は、学校の授業と連携して、主に国語と算数の復習を行い、教員免許を持った指導員が、学習を指導しています。
- 「教室」はパソコンや野球など、体験的、趣味的な活動やスポーツなどを保護者や地域ボランティアの協力を得て行っています。
- 「フリータイム」は、宿題や読書で静かに過ごしたり、活動的に伝承遊びやスポーツをしたりするなど、クラスや学年を越えて、自由に過ごす時間としています。
- 児童について、指導員と学校教員との情報交換、授業の進捗状況を把握しての勉強会運営、学校の教育目標の事業への反映など、学校と一体化した教育を視野に入れたさまざまな対応を行っています。
- 教室への地域ボランティアの協力のほか、区内大学の学生従事や地域協力者の児童の見守りなど、区民と協働し、児童の地域貢献による循環社会を進めています。



囲碁教室の様子



■ 立ち上げ当時

- 平成13年当時、完全学校5日制が開始されることへの学力低下の懸念や、子供が巻き込まれる犯罪の発生、塾や習い事で遊ぶ友達がいないなど、地域で子供たちが遊ぶ姿が見えないなどの状況があり、品川区の教育改革の中で、学校・家庭・地域社会の連携づくりとして、事業が開始しました。
- 地域コーディネーターとして、児童センターで勤務していた児童指導職の正規職員を配置し、これまでの地域とのつながりを生かして、事業運営や地域ボランティアの発掘等を進めていきました。



受付の様子

■ 展開・現在

- 遊びや活動を通じて、クラスや学年を超えた交流をするなかで、さまざまなルールや協調性などの社会性を身につけ、人との関わり方の基礎を学ぶことができます。
- 地域ボランティアが講師を務める教室や地域貢献活動を通じて、校外でも挨拶をするなど、児童と地域の方とのつながりができています。
- 品川区では、学校選択制を導入しており、各校の教育活動のほか、就学する小学校のすまいるスクールの利用となることから、その活動内容も学校選びのポイントの一つとなっています。



お茶教室の様子

■ 今後の展望・課題

- 事業実施当時は、教育委員会の所管でしたが、青少年・児童に関する健全育成事業の組織を一本化し、地域での一体的な対応を図るため、平成25年度に「子ども未来部」に移管をしました。その目的を達成すべく、教育委員会および学校との連携だけでなく、家庭や地域と協働し、児童の健全育成を推進します。
- 平成28年度より、「放課後子ども総合プラン」を一体的に実施する事業として、運営時間をこれまでの6時までから7時までに延長します。（放課後子供教室としては、5時までの実施）



勉強会の様子

[NPO との連携・協働による取組]

地域で子供を育てる ～汐見アフタースクール～

東京都文京区 / 汐見アフタースクール運営委員会

■ 活動の目的・概要

「安全で豊かな放課後を日本中につくる」

～学校を活用し、地域と連携したアフタースクール～

放課後NPOアフタースクールは子供たちの「安全で豊かな放課後」を作るために生まれてきた団体です。その目的を達成するために「アフタースクール」という取組がアメリカにあることを知り、日本で2005年より活動を始めました。

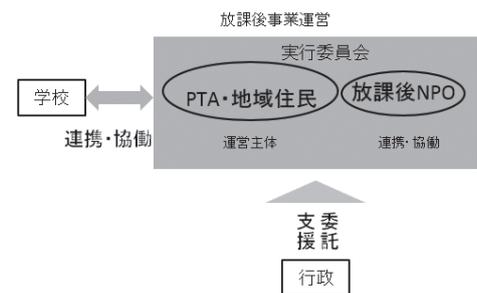
文京区では、放課後の教育活動を充実するため、地域住民やNPOと協力しながら、放課後の子供たちに居場所づくりに取り組んでおります。

汐見アフタースクールは2015年4月に開始した、保護者と地域住民が放課後NPOの協力のもと運営する実行委員会と文京区立汐見小学校が連携・協働して実施する取組です。

【アフタースクールの3つの特徴】

- ・ 学校で行う
- ・ 誰でも参加できる
- ・ 市民先生によるプログラムがある

体制図



■ 活動の特徴・工夫

○地域市民の力を生かした多様なプログラム

地域や社会にいらっしゃる様々な知恵や技術を授けてくれる大人たちを「市民先生」とお呼びし、放課後の学校で子供たちに多様な経験を届けています。とりわけ高学年でも意欲的に参加できるようなプログラムづくりをスタッフや講師で意見を出し合いながら試行錯誤し、生み出しています。団体全体では、地域の方からプロの方まで、これまでに2,000人以上の市民先生が参加してくださいました。



地元のプロ大工さんと建築プログラム

○インクルーシブ教育

アフタースクールは1年生から6年生まで、保護者の就労状況に関わらず、すべての子供たちが参加できます。さらに汐見アフタースクールでは、特別支援学級の子供たちも一般クラスの子と一緒に活動に参加しています。授業はバラバラに受けている彼らが、放課後の時間は一緒に過ごすことで、できないことがあればお互い自然に助け合える関係性を生み出しています。



異学年交流もさかん

○保護者の多面的参加

PTAに所属していない保護者の方もプログラムコーディネーターや現場スタッフ、あるいは会計や運営計画など様々な形で自主的に携わっているのが特徴の1つです。それぞれの活動は、放課後NPOのスタッフと保護者等のボランティアで参加して下さる方により運営しております。保護者だけでは運営できないところを、放課後の専門家である放課後NPOが支援しながら、週5日の運営を行っています。



保護者とNPOでタッグを組んで運営

■ 立ち上げ当時

STEP1

放課後活動の見直し

2014年夏、当時の放課後活動について、活動の充実に向けて見直しを検討。

STEP2

保護者×NPO ×行政の3者で調整

PTAを中心とした運営委員会と文京区、そしてNPOで協議調整を重ね、全保護者にアンケートを実施の上で了承を得、現在の運営形態を決定。

STEP3

アフタースクール開始

2015年春に汐見小アフタースクールを開始。



開校イベントは保護者も参加の巨大段ボール迷路づくり

■ 展開・現在

○安定したプログラム実施

子供たちのリクエストや地域のアイデアを生かしたプログラムを多数実施。特に数回、数ヶ月にわたって進行する継続プログラムでは年度末に子供たちが成果を発表し、それぞれの成長が感じられる素晴らしい結果となりました。

○人の成長

補助金での活動はスタッフの就業時間に制約がありますが、運営支援をしている放課後NPOが実施する研修に汐見アフタースクールのスタッフも積極的に参加することで開校当初に比べてさらにやりがいを感じられるとともに業務の効率化がみられるようになりました。

○市民先生の増加

単発で行うスペシャルプログラムの実施回数が増えたことに伴い、参加いただく市民先生の数も徐々に増えてきました。現在では来年度以降の課題として残る高学年の積極的参加をプログラムの工夫により図っています。



市民先生の話聞く子供たち

■ 今後の展望・課題

◎保護者×NPO ×行政等の協働運営を充実！

今後は、放課後の子供たちの教育活動充実に向けて、保護者、NPO、学校、行政による協働運営をより一層充実させていきたいと思えます。

【展望】

本活動は、幅広い保護者の協力があってこそ成り立っています。今後は汐見小学校と地域との連携・協働を進め、より多くの保護者や地域住民等の積極的参加を促し、また内容についても高学年の参加がより増加するようなプログラムづくりをしていきたいと思えます。

